

1【児童：学校生活についてのアンケート】

このアンケートでは、児童の学校生活での意識や友達関係、基本的な生活習慣、学習への意欲・関心・態度、家庭での様子等について児童自身が点検を行いました。学校は、その結果を分析し、成果と課題を今後の指導にフィードバックするよう努めて参ります。

(1) 集計結果

◎とてもおもう

○おもう

△あまりおもわない

×おもわない

ばんごう 番号	がっこうせいかつ 学校生活をふりかえって	◎+○(%で表示)	
		R 4	R 5
1	学校は安心できる場所で、来るのが楽しい。	90	90
2	先生や友だちに元気よくあいさつができています。	83	<u>87</u>
3	忘れ物をしないように、持ち物の用意ができています。	88	88
4	身の回りの整理・整頓ができています。	78	75
5	授業はわかりやすく、楽しい。	93	<u>85</u>
6	授業でわからないことがあるとき、先生に質問しやすい。	71	<u>77</u>
7	授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている。	92	91
8	授業で、自分の考えを発表したり友だちと話し合ったりしている。	84	82
9	授業中、姿勢正しく学習している。	78	<u>72</u>
10	進んで読書をしている。	69	<u>58</u>
11	しなければいけない仕事をきちんとしている。(そうじ・当番・係など)	98	96
12	早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活をおくっている。	84	<u>77</u>
13	休み時間には外で遊ぶなど、自分から進んで運動をしている。	87	85
14	安全に気をつけて登下校している。	97	96
15	宿題を忘れずにしてきている。	97	96
16	地震や火事のととき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいか分かる。	98	97
17	学校のきまりや約束を守って行動している。	96	96
18	友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている。	96	93
19	友だちのまちがった考えや行動に対して、はっきりと自分の思いを伝えられている。	84	82
20	相手をきずつけないように、言葉づかいに気をつけている。	91	88

※集計表右側の数値は、◎「とても思う」○「思う」を回答した児童の割合の合計です。
※青字は昨年度比+4以上、赤字は-4以上を示しています。

○ 全体的に、昨年度（令和4年度）の結果と大きな変化は見られませんが、次の2項目について、向上しました。

- 2「先生や友だちに元気よくあいさつができています」・・・87%（+4）
- 6「授業でわからないことがあるとき、先生に質問しやすい」・・・77%（+6）

○ 90%以上が「とても思う・思う」と回答している項目は、次の通りです。

- 1「学校は安心できる場所で、来るのが楽しい」
- 7「授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている」
- 11「しなければいけない仕事をきちんとしている」
- 14「安全に気をつけて登下校している」
- 15「宿題を忘れずにしてきている」
- 16「地震や火事するとき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいか分かる」
- 17「学校のきまりや約束を守って行動している」
- 18「友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている」

● 昨年度と比較し、「とても思う・思う」と回答した児童の割合が5%以上減少したのは、次の項目です。

- 5「授業はわかりやすく、楽しい」・・・85%（-8）
- 9「授業中、姿勢正しく学習している」・・・72%（-6）
- 10「進んで読書をしている」・・・58%（-11）
- 12「早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活をおくっている」・・・77%（-7）

● 低い結果だったのは、次の項目です。

- 10「進んで読書をしている」

(2) 結果からの考察

- 概ね、多くの児童が授業規律を守り、楽しく学校生活を送り、真面目に学習に取り組んでいることが分かります。授業中、分からないことを先生に質問しやすい雰囲気ができつつあるのは喜ばしいことです。
- 自分のすべき課題や仕事・役割に、多くの児童が誠実に取り組んでいることが分かります。
- 交通安全や生活安全についての意識が高く、きまりや約束を守り、落ち着いて生活できています。
- ほとんどの児童が、いじめや仲間はずしをせず、だれとでも協力してなかよく活動できています。しかし、友だちのまちがった言動に対して、気付いていながらもはっきりと意見するのをためらう傾向があります。少人数の人間関係の影響もあると思いますが、正義を通す勇気と実行意欲を高めてまいります。
- 分かりやすい授業を提供するのは、教育のプロとして当たり前のことですが、今年度の児童からの評価は昨年度より下がっています。このことを真摯に捉え、教材研究に努めなければならないと反省しています。教師は、児童の学習の状況をしっかりと見取り、適切な指導を行うとともに、ポジティブな行動支援や声かけを通して、できる喜びを体験させ、勇気づけを行います。また、分からないところをそのままにせず、積極的に質問したり確認したりできる雰囲気や時間を大切にします。そして、学校・学級の中で、多様性が受容され、一人一人が安心して自分の意見や思いが伝えられる仲間づくりを進めてまいります。
- 全国的にも活字離れが課題となっている読書については、残念ながら昨年度よりも低くなりました。今年度、「読み語り」ボランティアの活動も再開し、委員会活動も活性化しましたが、その効果が直ちに現れることは難しく、これからも根気強く子どもたちに読書の楽しさを経験する場を増やしてまいります。
- 全国・県下・町内でも不登校児童・生徒が増加傾向にあります。学習や生活、友だちや周囲の人との人間関係、自分自身のこと等悩みを抱えている児童一人一人の思いにしっかりと耳を傾け、保護者の方を連携して適切な対応を考え、「学校が安心できる場所で、来るのが楽しい」と答える児童が100%になるよう、全教職員で引き続き取り組んでまいります。